



カチオン性アクリルゴム・防水形下地調整材

アロンQD-S

2017年11月版

●仮防水として……



●下地調整材として……



販売部門



東京支店 〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-6
 名古屋支店 〒460-0003 名古屋市中区錦1-4-6
 北陸駐在 〒933-0981 高岡市二上院内500
 大阪支店 〒530-0005 大阪市北区中之島3-3-3
 広島駐在 〒730-0013 広島市中区紙屋町2-1-22
 福岡支店 〒810-0001 福岡市中央区天神2-8-30
 札幌営業所 〒060-0807 札幌市北区北七条西4-1-2
 四国営業所 〒762-0004 坂出市昭和町2-4-1

TEL:03 (3597) 7342 (ダイヤルイン)
 TEL:052 (209) 8594 (ダイヤルイン)
 TEL:0766 (44) 1565 (代表)
 TEL:06 (6446) 6568 (ダイヤルイン)
 TEL:082 (245) 7100 (代表)
 TEL:092 (687) 1415 (ダイヤルイン)
 TEL:011 (709) 6011 (代表)
 TEL:0877 (46) 5201 (代表)

www.aronkasei.co.jp/



建材・土木グループ

☎ 0120-557-947 (フリーダイヤル)

www.toagosei.co.jp/

このカタログに記載の商品は予告なしに仕様や取扱いを変更することがあります。

東亜合成株式会社

アロンQD-Sとは

東亜合成が誇る「アクリルゴム」に関する技術を結集して開発したカチオン性アクリルゴムエマルジョン「アロンQDベース」と特殊な配合にて調合した粉体「アロンQDセッターS」を混練りすることによって、極めて優れた特性をもち、各種下地に対する接着性と防水性能を兼ね備えたアクリルゴム系の防水形下地調整材です。

アロンQD-Sの特徴

● 接着性に優れています

コンクリート、モルタルをはじめ、鉄、硬質塩ビなど広範囲の下地によく接着します。



● ひびわれ追従性があります

下地のヘアークラックに追従し、防水機能を発揮します。



● 作業性に優れています

反応形であるため、一般のポリマーセメントモルタルに比べ成膜が早く、吹付け、ローラー、ハケ、コテ等により簡単に施工できます。



● 耐久性に優れています

アクリルゴムを使用しているため、紫外線、アルカリによる劣化を受けにくく、長期にわたり接着性、ひびわれ追従性を維持します。

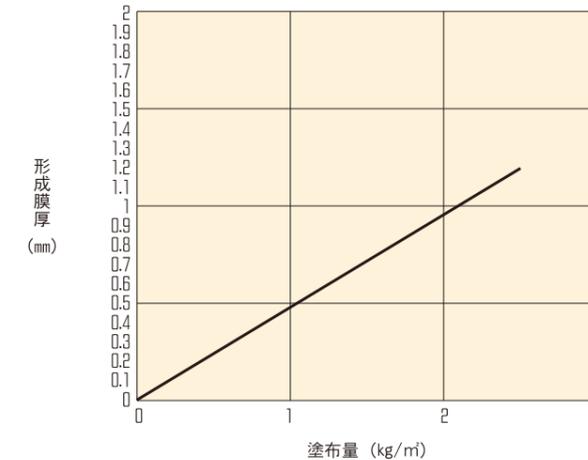
● 仮防水(一次防水)材として… その優れた付着性とひび割れ追従性により、既存防水材料撤去後の仮防水/一次防水材としてご使用いただけます。

● 下地調整材として… 本格的な塗膜防水施工に先立ち、下地の巣穴の充填、細かいひび割れの多い下地や目の粗い下地の目潰し、僅かな不陸など、防水性の高い下地造りに最適です。

● 付着補助材として… アスファルトシングルやタールウレタンの付着補助材として、使用できます。

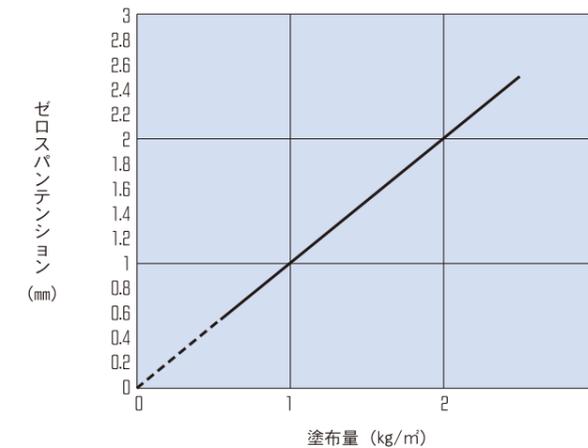
● 塗布量と形成膜厚の関係

アロンQD-Sの塗布量と形成膜厚の関係は下図を参考にしてください。



● 塗布量(形成膜厚)とゼロスパンテンションの関係

アロンQD-Sの塗布量とゼロスパンテンションの関係は下図を参考にしてください。



使用材料

商品名	外観性状	固形分 (%)	粘度 (mPa·s)	荷姿
アロンQDベース	乳白色液体 カチオン性アクリルゴムエマルジョン	約57	約45	15kg/缶
アロンQDセッターS	灰白色粉体	—	—	20kg/袋

本カタログ記載のテクニカルデータは、実験値であって、保証値ではありません。

アロンQD-Sの性能

● 接着性能

試験データ 下地の種類		接着力 (N/mm ²)		剥離箇所		備考
		乾燥時	水浸後	乾燥時	水浸後	
モルタル	乾燥	1.6	1.3	B	B	<剥離箇所> A：下地破壊 B：アロンQD-S母材破壊 A/B：界面破壊 <乾燥接着測定方法> アロンQD-S塗布7日後、 建研式接着力試験機で測定 <水浸接着測定方法> アロンQD-S塗布7日後より、 水浸1週間実施し測定 (測定膜厚約0.9mm)
	湿潤 *1)	1.1	1.0	A/B	A/B	
溶融アスファルト		1.1	1.0	B	B	
硬質塩ビ板 *2)		1.1	0.8	B	A/B	
磨き鉄板		1.8	1.4	B	B	

*1) 湿潤モルタルは2ヶ月間水に浸漬したものをを用いた。
 *2) 軟質塩ビに対しては可塑剤の移行があるため、適用しないでください。

● 引張性能

測定項目	測定結果	試験方法 *
伸び率 (%)	100	J I S A 6021 準拠
強 さ (N/mm ²)	1.9	J I S A 6021 準拠
引裂強度 (N/mm)	12	J I S A 6021 準拠
ひびわれ追従性 (mm)	2.0	引張速度5mm/分、ピンホール発生時点での追従ひびわれ幅

*) 塗布量2kg/m²(形成膜厚 約0.9mm)で測定を行った。

● アロンQD-S(混合品)の性状

混合後の液比重	1.42
混合後の乾燥膜比重	1.80

アロンQD-Sの使用方法

● 材料の混合

アロンQDベース1缶(15kg入り)に対し、アロンQDセッターS1袋(20kg入り)を徐々に加え、均一になるように充分混練してください。材料の軟度調整は施工方法に応じて希釈水約0~1ℓ/セットを添加して実施してください。



丸形容器
アロンQDベース15kg投入



攪拌しながら
アロンQDセッターS
20kg逐次投入



分散形羽根
高速攪拌機
使用

攪拌及び軟度調整

注) アロンQD-Sは混練後静置しておくると堅い感じになりますが、再攪拌すれば再び流動性の有る状態に復元します。20℃で直射日光の当たらない条件下では、2時間経過した材料でも攪拌により使用することが可能です。(気象条件により変動しますのでご注意ください。)

● 材料の施工

吹付け(エアスプレー)、ローラー(多孔質、ウールローラー)、刷毛、コテ等で塗布してください。

仮防水材として



●各使用材料を実際に調合及び施工する場合は、使用者の責任において、当社発行の技術資料などに従って下さい。

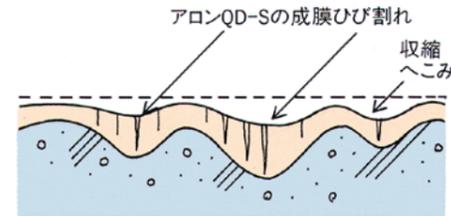
● 施工上の注意

§ 1. 下地処理用途には使用しないで下さい。

アロンQD-Sは、深さ約1.0mm以上の不陸修正、巣穴充填、凹凸面の平滑化など下地処理用途には使用しないで下さい。

- ・アロンQD-Sは一度に厚塗り（約2.0mm以上）したり、塗り厚みにムラができる凹凸下地に塗布すると、成膜時の乾燥収縮によりひび割れを起こす場合があります。

◎これらの用途には下地処理材アロンカチオクリート（カチオン性アクリル樹脂ポリマーセメントモルタル）をご使用下さい。



(a) 不陸修正 (断面略図)

§ 2. プライマーの代替的な使い方はしないで下さい。

アロンQD-Sは下地調整材であり、プライマーではありません。

1. 下地の条件

1) コンクリート、モルタル下地

アロンQD-Sはフレッシュなコンクリート、モルタルによく接着しますが、雨で打たれたり、長期間放置されたコンクリート、モルタル面には僅かな工フロの発生、粉ふき塵埃などの付着があり、これらの下地には接着しないと考えて下さい。

（これらの下地では、引き剥がすとQD-S塗膜の裏面に粉や塵埃が付いた状態で簡単に剥がれます。アロンQD-Sには表面の工フロ、粉ふき、ほこりなどを取り込み、下地を強化するアンカー効果はありません。）

この様な下地にはプライマーを用いるか、次の下地処理が必要です。

① プライマー塗布

アンカー効果の大きさの順は (大) アロン強化プライマー > アロン水性プライマー (小)

② 下地処理

サンダー掛け清掃して脆弱層、工フロ、汚れなどは除去しフレッシュな表面として下さい。

2) 残存プライマー、接着材類下地

既設防水材撤去跡の残存プライマーや接着材類塗膜には、接着不良部分・浮きがなく、下地への接着力があることを確認して下さい。

3) アスファルトとの接着性

アロンQD-Sはアスファルトに接着しますが、溶融アスファルトを流した鏡面状の平滑面や既設アスファルト防水層撤去跡のアスファルトプライマー残存平滑面にアロンQD-Sを水希釈して粘度を下げて塗布するとハジキ現象が生じますので、水希釈しない粘度の比較的高いものを2回に分けて塗り付けて下さい。

- ・アスファルトに対する接着性は、アロンカチオクリートの方がアロンQD-Sより優れています。
- 又、既設露出アスファルト防水層の改修の場合の部分撤去跡の埋め戻し及び面修正にはアロンカチオクリートをご使用下さい。

4) 既設シルバー塗料類下地

既設シルバー塗料類の上にはアロンQD-Sは塗布しないで下さい。

- ・既設シルバー塗料類の上にアロンQD-Sを塗布すると、アロンQD-Sのアルカリと露出しているアルミ(箔)とが反応し水素ガスを発生し、ふくれを生ずる場合があります。

§ 3. 仮防水(一次防水)に於ける注意事項

1. 仮防水(一次防水)の施工手順

既設防水層の撤去部の仮防水(一次防水)としてアロンQD-Sを使用する場合は、下記の施工手順を原則として下さい。

① 既設防水層撤去部の下地処理、不陸修正を前記の如く、アロンカチオクリートにて行う。

② 次に仮防水としてアロンQD-Sを均一厚みに、平滑に塗布して下さい。

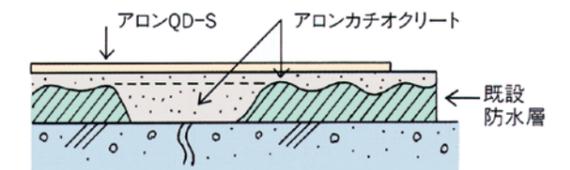
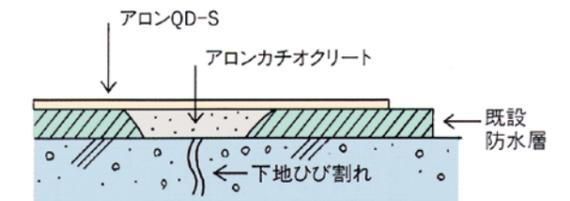
(注)

工程の都合上、どうしても仮防水を先行させる必要がある場合は、前記の下地処理を行った上、次の通り行って下さい。

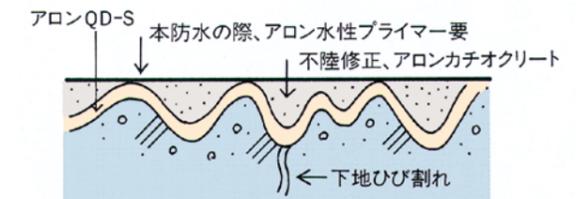
① アロンQD-Sを出来るだけ平均的な厚みになる様に塗布、乾燥させて下さい。

② 次に不陸修正をアロンカチオクリートで行って下さい。

但し、この場合、本防水を行う際にはアロン水性プライマー又はアロン水性マルチプライマーの塗布が必要です。



(b) 下地処理、不陸修正と仮防水



(c) 仮防水の先行を要する場合

2. 本防水について

1) アロンQD-Sは仮防水を目的としていますが、本防水は当社のアクリルゴム塗膜防水アロンコートSQを対象としております。

◎これ以外の本防水(ウレタン、シート防水など)の適用は、必ず試験施工で確認の上、適用下さい。

2) アロンQD-S塗膜の上に溶剤形のプライマーや接着剤を塗布すると、溶剤がアロンQD-S塗膜に浸透し、膨潤させ、ふくれや浮きを生ずる場合がありますのでご注意下さい。

3) アロンQD-S仮防水と本防水(アロンコートSQ)の間隔は、汚れの程度などによって左右され正確ではありませんが、14日間以内を原則として下さい。

- ・これ以上間隔があく場合、本防水(アロンコートSQ)の施工に際してはアロン水性プライマー又はアロン水性マルチプライマーをご使用下さい。